

女流義太夫演奏会

4月公演

◆ 解説「メリヤスって何？」—— 鶴澤津賀榮

◆ 艶容女舞衣酒屋の段 はですがたおんなまいぎぬ さかや だん

浄瑠璃 竹本土佐恵 三味線 鶴澤駒治

細 鶴澤津賀佳

◆ 仮名手本忠臣蔵 勘平腹切の段 かなでほんちゆうしんぐら かんぺいはらきり だん

浄瑠璃 竹本越若 三味線 鶴澤賀寿

◆ 日高川入相花王 渡し場の段 ひだかがわいりあいざくら わたし だん

浄瑠璃 竹本越里 三味線 鶴澤津賀花

浄瑠璃 竹本綾一 三味線 鶴澤弥々



鶴澤津賀佳



鶴澤駒治



竹本土佐恵



鶴澤賀寿



竹本越若



鶴澤弥々



鶴澤津賀花



竹本綾一



竹本越里

2024年4月26日(金)

18時30分開演 [18時開場]

ティアラこうとう小ホール

主催 ● 一般社団法人義太夫協会 / 義太夫節保存会

後援 ● 公益財団法人日本伝統文化振興財団

料金◎4,000円/全席自由

会員・学生・障がい者手帳をお持ちの方 3,000円

予約受付: 2024年3月21日(木)10時30分より

☎ 03-6264-3047
✉ am-giday@gidayu.or.jp

10時30分より前のメールは無効とさせていただきます。
*未就学児の入場をご希望の方は当協会までお問合せください

一般社団法人 義太夫協会

〒104-0045 東京都中央区築地4丁目3-12 秀和第二築地レジデンス706号室

TEL.03-6264-3047 FAX.03-6264-3048

●http://www.gidayu.or.jp/ ●E-mail:am-giday@gidayu.or.jp

艶容女舞衣

酒屋の段

【解説】

安永元年（一七七二）大坂豊竹座初演。作者は竹本三郎兵衛、豊竹応律、八民平七。美しい人情を描いた世話物の代表作です。中でも、本日演奏するお園のクドキの、「今頃は半七様どこにどうしてござろうぞ」はよく知られています。元禄八年、大坂千日前での赤根屋（茜屋）の半七と美濃屋の三勝が心中した事件が歌舞伎となり、二十五年を経た享保四年、紀海音が『笠屋三勝廿五年忌』という浄瑠璃を創作しました。その後更に笠屋を実説美濃屋にし、半兵衛やお園を配した『女舞剣紅楓』の筋を受け、発展させたものがこの作品です。上中下三巻に分かれ、下の巻の、「上塩町の段」が「酒屋の段」となります。

【あらすじ】

大坂上塩町の酒屋「茜屋」に幼子を連れたい女が酒を買いにあらわれ、子どもをおいて姿を消します。この店の息子半七は、お園という貞淑な女房がいるものの、以前から美濃屋の三勝という遊女となじみ、二人にはお通という子どももおりました。半七はふとした廓のいきさつで、人殺しの科人となってしまいます。半七の父半兵衛は、一度は息子を勘当したものの、不憫に思い、代官所で息子の罪を引き受けて縄にかかります。一方、お園の父宗岸は、半七の不行跡に愛想をつかし、一旦はお園を実家へ連れ戻したものの、お園が悲しみに沈んでばかりいるので、再び嫁として迎えてくれるように半兵衛に頼みに来ます。お園は夫に嫌われるのは己の至らなさからと、ひとり寂しく半七の身を案じます。

仮名手本忠臣蔵

勘平腹切の段

【解説】

寛延元年（一七四八）大坂竹本座にて初演。竹田出雲・三好松洛・並木千柳の合作です。『菅原伝授手習鑑』、『義経

千本桜」とともに三大浄瑠璃の一つに数えられます。当時の幕府の検閲から逃れるため時代を足利時代に置き換え、登場人物の名前も浅野内匠頭を塩冶判官、吉良上野介を高師直、大石内蔵助を大星由良助に変えています。

【あらすじ】

京の祇園に身売りをしたお軽を見送った勘平のもとに舅・与市兵衛が遺体となって戻ってきます。おりしも仇討ちの同志が到着、勘平が持っていた綿の財布から、舅殺害は勘平の仕業と責められ、勘平は切腹。しかし遺体の傷が鉄砲傷でないことから、斧定九郎の仕業と誤解が解けます。勘平は仇討ちの同志として連判状に名を連ね、血判を押して息絶えます。

日高川入相花王

渡し場の段

【解説】

宝暦九年（一七五九）大坂竹本座初演。竹田小出雲、近松半二らの合作です。お家騒動に道成寺の安珍清姫伝説が加えられた物語は、現在でも人気作となっています。

【あらすじ】

時の朱雀天皇は病弱な為、弟の桜木親王に帝位を譲ろうとしますが、親王は左大臣藤原忠文に陥れられます。親王は迫害を逃れるうちに山伏安珍となり、紀州の真那古庄司のもとに逗留します。庄司の娘清姫は、かつて都で親王を見初め、恋心を抱いていたのですが、親王には、おだ巻姫という恋人がおりました。二人は忠文の一味の手を逃れ、道成寺へと向かいますが、清姫は嫉妬にかられ二人の後を追って日高川の渡し場にたどりつきます。清姫は渡し守に舟を出すように頼みますが、渡し守が拒むとその姿を蛇体に変えて川を渡っていくのでした。



楊洲周延画「竹のひと節 日高川」
義太夫節『日高川』の場面を描く。 © public domain

ティアラこうとう小ホール



●ご予約いただいたお客様は、当日受付にて入場料をお支払いください。

〒135-0002 東京都江東区住吉2-28-36 TEL.03-3635-5500

- 都営地下鉄新宿線・東京メトロ半蔵門線 住吉駅A4出口より徒歩4分
- バス：JR錦糸町駅南口バス乗り場
東22系統：東陽町駅前経由 住吉駅前・下車徒歩5分
錦11系統：築地駅前 住吉駅前・下車徒歩5分
錦28系統：東大島駅前 江東公会堂前・下車徒歩1分

義太夫協会 会員募集!

義太夫協会主催公演の入場料が割引になるサポーターシステム(賛助会員)は常時会員募集中です。詳しくは義太夫協会までお問い合わせください。

企画・制作●一般社団法人 義太夫協会 デザイン●TRIAD

次回5月公演

女流義太夫演奏会

開演◎18時30分 [開場◎18時]

2024年5月24日[金] 深川江戸資料館 小ホール

料金◎4,000円/会員・学生・障がい者手帳をお持ちの方3,000円